

## 介護予防通所リハビリテーション利用者の現状と体力測定の結果報告

医療法人財団 暁 あきる台病院リハビリテーション部

医療法人財団 暁 あきる台病院通所リハビリテーション部

ヨシハラシイチ モリタマサヒロ イトウタカシ イノウエシンジ メグロアキヒサ タカモリチ ホ ハセガワカナ タカシマツム  
吉原伸一 森田昌宏 伊藤崇司 井上真二 目黒暁久 高森千穂 長谷川可奈 高島耕

【はじめに】当院の通所リハビリテーション（以下；通所リハビリ）は1996.4に開設し、現在定員27名で週5日営業を行い、通所リハビリと介護予防通所リハビリの利用者に対して、理学療法士による個別リハビリテーションを実施している。2010.4より介護予防通所リハビリに対して事業者評価加算が認定された。2010.1.1～2010.12.31の1年間の介護予防通所リハビリテーションの利用者を『運動器の機能向上マニュアル（改訂版）』の地域支援事業（特定高齢者・要支援高齢者の評価基準）である、体力測定の基準に則して、握力・開眼片足立ち時間・Timed Up & Go Test（以下TUG）・5m歩行時間（通常・最大）を測定した結果を報告する。

【同意と説明】あきる台病院倫理規定委員会の承認を得て、利用者個人名が特定されないように配慮した。

【対象者】当院、介護予防通所リハビリの利用者は43名（男性14名、女性29名）であった。利用者の平均年齢は78.1歳（男性76.2歳、女性79.0歳）であった。要支援1は19名（男性6名、女性13名）、要支援2は24名（男性8名、女性16名）であり、要支援1および2の女性においてのみ要支援1の女性平均年齢74.3歳、要支援2の平均年齢80.3歳と差を認めた。現病歴・既往歴で脳血管疾患13名、運動器疾患26名、その他4名であった。疾病特性では、前期高齢者では脳血管疾患が多く、後期高齢者では運動器疾患の疾病傾向がみられた。利用者の主訴およびニーズは、肩・腰・膝等の関節疼痛の緩和19名、歩行の安定・耐久性改善16名、現状維持・廃用症候群予防3名、知覚異常緩和3名、その他2名であった。特に女性では、予防介護通所リハビリ利用目的が歩行の安定12名（41.4%）と膝関節痛緩和9名（31.0%）で72.4%を示した。歩行時の歩行補助具の利用においては、T字杖使用30名（69.8%）、歩行補助車使用6名（14.0%）、独歩4名（9.3%）、四脚杖等その他3名（7.0%）で何らかの歩行補助具を必要としている利用者が90%であった。

【体力測定】予防介護通所リハビリの事前アセスメントとして、体力測定マニュアルに準じて握力、開眼片足立ち時間、TUG、5m歩行時間（通常・最大）の6項目を理学療法士が測定した。事前アセスメントの体力測定の平均値は、握力19.4kg、開眼片足立ち時間7.7秒、TUG19.5秒、5m通常歩行8.4秒、5m最大歩行7.1秒であった。事後アセスメント（3ヶ月目、6ヶ月目）の体力測定の結果を加味すると、握力並びに開眼片足立ち時間の改善は認められなかったが、TUG、5m歩行（通常・最大）においては改善傾向を認めた。また、男性の平均値は、握力26.0kg、開眼片足立ち時間15.0秒、TUG16.2秒、5m通常歩行6.4秒、5m最大歩行5.0秒であった。女性の平均値は、握力16.0kg、開眼片足立ち時間4.2秒、TUG22.3秒、5m通常歩行9.5秒、5m最大歩行8.1秒であった。現病歴・既往歴に脳血管疾患を有する利用者の平均値は、握力26.0kg、開眼片足立ち時間10.3秒、TUG17.2秒、5m通常歩行7.4秒、5m最大歩行6.0秒であった。また、現病歴・既往歴に運動器疾患を有する利用者の平均値は、握力16.0kg、開眼片足立ち時間6.6秒、TUG17.3秒、5m通常歩行7.2秒、5m最大歩行6.0秒であった。なお、事後アセスメントの体力測定の結果を加味すると、脳血管疾患を有する利用者の場合は、複合的動作能力を示すTUGのみに改善傾向が見られ、運動器疾患を有する利用者は、開眼片足立ち時間、TUG、5m通常歩行（通常・最大）の改善傾向を認めた。

【まとめ】当院の介護予防通所リハビリ利用者の現状分析を行い、利用者の年齢、要支援状態区分、現病歴・既往歴、主訴・ニーズ、歩行状況を検討した。「運動器の機能向上マニュアル」の体力測定マニュアルに準じて握力、開眼片足立ち時間、TUG、5m歩行時間（通常・最大）を測定し事前アセスメントとした。また、事後アセスメントと比較することによって、介護予防通所リハビリの効果の傾向を検討した。